『社会で強く生きぬく子どもの育成』　第０１２号
もっと未来へ　わくわくする未来へ歩みだそう　令和８年１１月１０日
学校だより『ふこの』　大東市立深野小学校
校長　世尾　秀和

◆校内音楽会＆土曜参観を終えて

１１月５日の校内音楽会、７日の土曜参観を予定どおり開催することができました。運動会が終わって間もない中、子どもたちは自分の限界を作らず、新たな挑戦に臨んでくれました。校内音楽会においては全学年が集まっての開催とし、各学年の歌や演奏をみんなで称賛し合い、１年生から５年生のみんなは来年度に向けての目標設ｆ定ができた時間でもありました。６年生にとっては運動会同様に小学校最後の音楽会としてよい仲間との思い出づくりにもなったかと思います。

音楽会を兼ねた土曜参観においては、多くの保護者の方に来校いただき、子どもたちの練習の成果を見ていただくことができました。体育館での開催のため席に限りもあり、参観する環境も十分とはいえなかったかと思いますが、少しでもお子さまの頑張る姿をお見せできたならば幸いです。参観にあたってご理解、ご協力いただき誠にありがとうございました。

今後も各行事にあたっては子どもたちへの期待値をしっかりと定め、常に可能性を最大限に引き上げられるよう、「やってよかった！」と子どもたちが振り返ることができる行事づくりに努めてまいります。

深野小の子どもたちには一生懸命になることは素敵なことだ、本気を出すこと、頑張ることは素晴らしいことだと思える子になってもらいたく、一生懸命になることが恥ずかしいと思うことなどない、社会で強く生きぬく子どもたちに育ってほしいと願っています。








◆言葉の大切さ

学校生活の中で、子どもたちは毎日たくさんのチャレンジをしています。日々の授業や係活動、テストなど、うまくいくこともあれば、時には壁にぶつかって悔しい思いをすることもあります。ついつい大人の私たちは結果を求めて、子どもたちに「できた？」「何点だった？」と結果に意識が向いてしまうことはありませんか。もちろん良い結果が出たときにはおもいっきり褒めてあげ、一緒に喜んであげたいものです。しかし、子どもたちの成長において結果や成果と同じくらい大事なものは結果や成果に至るまでに一生懸命に取組んだ「プロセス」の部分ではないでしょうか。

「最後まであきらめずに机に向かって取組んでいた姿」

「失敗して悔しかったけど、次に向けて気持ちを切り替えようと努力していた姿」

「苦手なことから逃げずに練習にはげんだ姿」

こんな「一生懸命に頑張ったこと」や「努力したこと」は自分を信じる力（自己肯定感）となり、次のチャレンジに立ち向かう強さを育んでいくのではないでしょうか。

各ご家庭でも子どもたちが壁にぶつかったり、思うような結果がでなかった際には「最後まで一生懸命にやっていて素敵だったよ」「あきらめずに取組んでいたことをちゃんと見ていたよ」とプロセスを認める言葉をぜひかけてあげてください。大人からのそういった言葉は子どもたちに安心感と勇気を与えられると思います。

学校においても子どもたちのチャレンジや一生懸命さをこれからも応援していきます。

◆大東市小中学生弁論大会

１１月１３日（金）に大東市立総合文化センターサーティホールにて、第２１回大東市小中学生弁論大会が行われます。本校からは５年生の代表児童が１分間スピーチ部門「わたしの学校紹介」に出場します。また代表になった児童のクラスの仲間も会場に応援にいきます。

サーティホールという大舞台にて、また多くの観客の前でスピーチすることは緊張も不安もあるかと思いますが、必ず素晴らしいスピーチを披露してくれると期待しています。また他校のスピーチを聞くことによるいろいろな気づきや学びもあります。弁論大会を通じて人に自分の考えを伝えることの素晴らしさやどうすれば自分の声が相手に届くかを実感する機会となればと考えています。

◆教職員の動静について

個人情報となりますのでホームページ上では掲載を控えております。